

總目録

兵庫縣漁業慣行録
鹹水

緒言

我兵庫縣ノ地タル南北共ニ海ニ瀕シ且ツ淡
 路家嶋等ノ如キ嶋嶼アリテ頗ル鱗介ノ産ニ
 富ニ隨テ漁撈ノ業ハ古來管下民業中ノ一重
 要ナルモノトナレリ故ニ此事業ノ改良進歩
 ヲ圖リ之ヲシテ益々盛大ナルニ至ラシムル
 ハ縣下勸業上頗ル緊要ノ事ナリトス而ルニ
 今之カ改良ヲ圖ルニ當リ最モ必要ナルモノ
 ハ則チ其舊例慣行ヲ知悉シ之ヲ斟酌取捨ス
 ルニ在リ夫レ舊慣ヲ參酌スルノ百般事業
 必要ナルハ素ヨリ言ヲ俟タズ特ニ我漁撈ノ

業ニ於テ最モ然リトナス蓋シ漁撈ノ業タル抽出工業ノ最モ單純ナルモノナレハ他ノ精製工業ト其趣ヲ異ニシ凡ソ其方法ノ得失ハ主トシテ其地水陸自然ノ状勢ニ適合スルノ度如何ニ關スルモノニシテ而シテ彼ノ舊例慣行ナルモノハ多クハ數十百年ノ間幾多ノ經驗ヲ重子不知不識ノ際自然ノ必要ニ循應シテ漸次生出シ来レルモノナルカ故ニ舊慣ノ示ス所ハ則チ最モ能ク實際ニ適シ最モ多ク利益有ル方法ナル可ケレハナリ故ニ苟モ漁業ノ改良ヲ圖ラント欲スルモノハ必スヤ先ツ其舊慣ヲ知悉シ斟酌取捨其宜ヲ得テ而

シテ后徐ニ新規ノ改革ヲ加ヘサル可ラス是ヲ以テ我縣廳ニ於テハ夙ニ之カ調査ニ著手シ早晚一部ノ漁業慣行録ヲ編シ得テ以テ將來施政上ノ参考ニ供セント望ミ居リシカ恰モ好シ去ル明治十九年五月ニ至リ農商務省令第七號ヲ以テ漁業組合規約準則ヲ發布セラレ一般漁村ヲシテ舊慣ヲ參酌シテ新規約ヲ訂結セシムル丁ニナリ慣行録編成ノ事ハ直接ノ必要事件トナリシカハ遂ニ同月ヲ以テ之カ調査ニ著手シ今二十二年ノ歳晚ニ至リ漸ク之ヲ完成セリ是則チ此書ヲ編成セシ所以ノ大略ナリ抑モ漁村人民ノ如キハ元來

頗ル簡樸ナルモノニシテ諸般ノ契約規定等
 モ多クハ唯言ヲ以テ相約スルニ止マルカ故
 ニ今ニ於テ舊記ノ徴スヘキモノ甚ク乏シク
 父老ノ傳フル所モ亦頗ル明確ヲ欠クモノア
 リ是ヲ以テ今此書ニ於テモ彼此ヲシテ詳略
 均齊ナラシムル能ハス間々又脱漏錯誤ヲキ
 ヲ保セスト雖其大体重要ナルモノニ至テ
 ハ大都之ヲ網羅シテ又予遺ナキヲ信ス願フ
 ニ縣下漁撈ノ業ニ干涉スルモノ官ト民トニ
 論ナク之ニ依テ以テ稽フル所アリ以テ其施
 設行為ノ上ニ參酌照考スルアラハ則チ此不
 完備ノ調査ト雖トモ未タ必スシモ多少ノ裨

補ナクンハアラス而シテ我編述ノ旨意モ亦
 庶幾クハ達セン乎

明治二十二年十二月

兵庫縣

兵庫縣漁業慣行録

凡例

一本書ハ明治十九年本縣訓令第十九號ヲ以テ調査セシ
 漁業慣行書ニ基キ傍ラ一二ノ調査書ヲ引用シテ編纂
 セルモノナリ但該調査ハ其區域頗ル廣ク其事項甚ク
 多カリシヲ以テ各戸長役場事務繁劇ノ際完全ナル成
 績ヲ得ルヲ能ハサリキ故ニ本書各項中彼是相照應セ
 サルモノ或ハ必要ノ件ニシテ遺漏セシモノ或ハ登載
 ノ事項ニシテ其狀ヲ盡サズルモノ或ハ誤謬ニ係ルモノ
 ノ等蓋シ鮮少ナラサルヘシ皆將ニ他日ヲ俟ツテ審査
 訂正セントス

一一郡内ノ數村落ニシテ其慣行彼此同一ナルモノハ之
 ヲ併記シ其村名ヲ註シテ其出所ヲ示セリ然レモ全郡

同一ナルモノハ別ニ其村名ヲ記セス
 但漁法ノ大同小異ナルモノハ各郡ノ調査ニ就キ参
 酌取捨シテ之ヲ編纂セリ

一 漁税ハ明治十七年迄ハ舊慣ニ據リ徴収シ其法一定セ
 サリシヲ以テ每村ニ之ヲ掲載スレモ同十八年均一ノ
 法ヲ發布セシニヨリ以來ノ分ハ総説ニ其事由ヲ掲ケ
 テ每村ニハ之ヲ省ケリ

一 第二章第一項第二項其他魚名漁具名等ハ便覽ノ為メ
 「イロハ」順ヲ以テ掲載セリ但方言ノ異ナルニヨリ或ハ
 一種ノ水産ニシテニヶ所ニ重出セシモノナキヲ保セ
 ス是亦他日ヲ俟ツテ再調スヘシ

一 第四章第一項漁業概表中筍簷類ニハ章魚壺繩ヲ算入
 セリ但シ一筋ヲ一ヶト看做セリ

一 第四章第二項中第二表ヲ掲ケサル郡ハ總テ普通漁者
 ノミアル分ナリ

一 参考トナスヘキ記録等ハ別ニ編纂シテ附録トナス
 一 漁具漁船ハ別ニ圖解ヲ編纂シテ附録トナス而シテ漁
 具ハ該漁魚名ノ「イロハ」順ニヨリ順次ヲ立テ掲載ス但
 該圖ハ單ニ其形状ヲ示スニ止マルヲ以テ其大小長短
 等ハ尺度ニ照ラシ矛盾スルモノ少カラス是亦將ニ他

日ヲ俟テ完全セシメントス
 一 淡水漁業之部但馬國城崎郡豊岡川ハ海潮遡上ノ為メ
 鹹水魚ニ關スルモノヲモ編輯セリ

明治廿二年十二月

兵 庫 縣

兵庫縣漁業慣行録目次

鹹水漁業之部

卷之一

總説

漁制

漁場

漁民

卷之二

攝津國川邊郡

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁税ニ關スル事

第三項 其他ニ關スル事

第二欸 規約及慣例

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁業ニ關スル事

其一 漁權

其二 仲間加入ノ仕来

其三 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

其四 販賣ノ仕方

其五 漁村維持並救恤

第三項 雜事

第三欸 犯則違例ノ處分

第二章 漁撈

第一欸 種類

第一項 品名

第二項 大小輕重

第二欸 漁期

第一項 期節

第二項 氣象

第三項 群来ノ前兆

第四項 去来ノ期節及方向

第三欸 漁場 區域○潮流
水底ノ概狀

第四欸 入會漁船ノ數

第五欸 漁具

第一項 漁網及釣具等

第二項 漁船

第六欸 漁法

魚
庫
興

六
五
系

第七款 有害漁法

第三章 蕃殖

第一款 生產期節

第二款 生產場

第三款 有害物

第四款 蕃殖ノ謀ル場所

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

第二款 營業種別

卷之三

同 國武庫郡

同上

卷之四

同 國菟原郡

同上

卷之五

同 國神戸區

同上

卷之六

同 國八部郡

同上

卷之七

播磨國明石郡

同上

卷之八

同 國加古郡

同上

卷之九

同 國印南郡

同上

卷之十

同 國飾東郡

同上

卷之十一

同 國飾西郡

同上

卷之十二

同 國揖東郡

同上

卷之十三

同 國揖西郡

同上

卷之十四

同 國赤穗郡

同上

卷之十五

淡路國津名郡

同上

卷之十六

同 國三原郡

同上

卷之十七

但馬國城崎郡

同上

卷之十八

同 國美含郡

同上

卷之十九

同 國二方郡

同上

附錄

圖解

參考書



淡水漁業之部

卷之一

總說

漁制

漁場

漁民

卷之二

攝津國川邊郡

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁稅ニ關スル事

第三項 其他ニ關スル事

第二款 規約及慣例

魚
庫
興

六
頁
系

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁業ニ關スル事

其一 漁權

其二 仲間加入ノ仕来

其三 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

其四 販賣ノ仕方

其五 漁村維持並救恤

第三項 雜事

第三款 犯則違例ノ處分

第二章 漁撈

第一款 種類

第一項 品名

第二項 大小輕重

第二款 漁期

第一項 期節

第二項 氣象

第三項 群来ノ前兆

第四項 去来ノ期節及方向

第三款 漁場 區域○潮流
水底ノ概狀

第四款 入會漁船ノ數

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

第二項 漁船

第六款 漁法

第七款 有害漁法

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

第二款 生産場

第三款 有害物

第四款 蕃殖ノ謀ニ場所

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

第二款 營業種別

卷之三

同 國有馬郡

同上

卷之四

丹波國氷上郡

同上

卷之五

播磨國美囊郡

同上

卷之六

同 國多可郡

同上

卷之七

同 國加東郡

同上

卷之八

同 國加西郡

同上

卷之九

同國加古郡

同上

卷之十

同國印南郡

同上

卷之十一

同國飾西郡

同上

卷之十二

同國神東郡

同上

卷之十三

同國突粟郡

同國

卷之十四

同國揖東郡

同上

卷之十五

同國揖西郡

同上

卷之十六

同國佐用郡

同上

卷之十七

同國赤穗郡

同上

兵
庫
興

系

卷之十八

但馬國朝來郡

同上

✓ 卷之十九

同 國養父郡

同上

卷之二十

同 國氣多郡

同上

卷之二十一

同 國出石郡

同上

卷之二十二

同 國城崎郡

同上

卷之二十三

同 國美含郡

同上

卷之二十四

淡路國三原郡

同上

附錄

圖解

參考書

以上

兵庫縣

系

兵庫縣漁業慣行録卷之一 鹹水漁業之部

總說

漁制

兵庫縣ハ攝津、播磨、丹波、但馬、及淡路ノ五箇國ニ跨リ元尼崎、明石、姫路、龍野、赤穂、豊岡、出石、徳嶋、三田、福本、林田、三日月山崎、三草、小野、安志、村岡、柏原、篠山等ノ諸領主分領ニ屬セシカ維新後府縣ノ制ヲ行ハル、ニ當リ管轄區域屢々變更シ終ニ現今ノ所轄ニ統一セラレタリ爰ヲ以テ漁業ニ在テモ其制各地適宜ニシテ寬嚴頗ル一ナラサリシカ如シト雖モ今各漁村ノ申報ニ由テ之ヲ考フルニ漁期漁具或ハ漁場等苟クモ漁業上必要ノモノニ至リテハ何地ニ於テモ特ニ制限ヲ設ケテ水産ノ繁殖ヲ助ケ或ハ漁業ヲ保護セシ等其注意ヲ怠ラサリシヲ見ル而ルニ當時ノ漁

民ハ概ネ淳朴ニシテ能ク規則ヲ遵守シ敢テ之ヲ犯サ、
 ルノミナラス又其利ヲ悟リ往々規約等ヲ設ケテ各自制
 限ヲ定メタルモノ少ナカラス而シテ因襲ノ久シキ遂ニ
 一ノ慣例トナリ今ニ至テ尚之ヲ實行スルモノアリ然レ
 氏大体ニ就テ之ヲ視ルキハ舊法一旦弛廢ニ屬セシニ隨
 ヒ秩序制限漸ク紊乱シ尋テ諸般ノ慣行モ亦將ニ湮滅セ
 シトスルノ傾向アリ茲ニ於テ乎明治十四年兵庫縣甲第
 二百號ヲ以テ他ノ受持漁場又ハ採藻場ヲ侵スモノハ違
 警罪ヲ以テ處分スルヲ布達セリ蓋其弊ノ一端ヲ防カ
 シトセルナリ

漁税モ亦古來種々ノ賦課法アリテ一定ナラス府縣ノ制
 ニ移リテ以來明治六七年ノ頃ニ至リ全ク之ヲ廢シ更ニ
 同八年太政官第二十三號公布ヲ以テ或ハ從來慣行アラ

ナル漁村ニモ海面借區ヲ許シ其使用料ヲ徴シ或ハ猶從

前ニ据置ク等一ニ各縣適宜ノ處分ニ歸セリ同九年兵庫
 縣ノ所轄ニ合セシカ同十三年營業稅雜種賦課規則ヲ定
 メシモ漁業鑑札料ヲ廢シ漁税ハ尚舊ニ据置キ同十八年
 ヲ以テ創メテ均一ノ稅法ヲ定メ一般ニ發布シ以テ現今
 ニ至レリ以上管廳ノ制ニ係ルモノハ
 漁權ニ三種アリ專漁權一村或ハ一人ニシテ共同權他
ト共同シテ漁權入會漁權由他ノ區別ナク自ト云フ皆從
 來ノ慣行ニヨリ其一ニ有シ漫リニ之ヲ犯スヲ許サス
 蓋シ漁業上重要欠ク可ラサルノ制ナリ今國別ヲ以テ其
 大概ヲ示スヲ左ノ如シ

攝津國

從前ハ浦方ノニ漁業ヲ為シタリレカ明治八年太政官

第卅三號公布ニヨリ同九年ヨリ滿三ヶ年間更ニ海面
 ヲ借區セシメ而シテ總テ海岸付ノ村々ハ均シク之ヲ
 許シタリハ詳細ハ參考書布達ノ部第七第
 八第九第十第十一號ニ掲載ス其滿期後ハ舊
 ニ復セリト雖モ今日尚之ヲ慣行シ各漁村ノ地境ヲ以
 テ海面ヲ限リ之ヲ其町村ノ專漁場トナスアリ或ハ數
 町村ノ共同漁場トナスアリ沖境ハ陸ヲ距ル九十六丁
 ヨリ遠キハ三四里ニ至ルアリテ各地一定セズ而シテ
 其以前ハ一般入會漁場トナセリ

播磨國

磯漁場ハ概テ陸ヲ距ル八丁迄ニシテ各村ノ專漁場ト
 ナシ其以前ハ概テ他村入會漁場ナリ其沿岸ノ境界ハ
 町村ノ地畧ヲ以テシ或ハ數町村ヲ以テカギリ一定セ
 ス或ハ陸地水涯ヨリ以外ハ直チニ以テ一般諸國ノ入

會漁場トナスアリ又飾東郡家島ノ如キハ東西九里南
 北八里半ノ間ヲ以テ專漁權ヲ有シ他ノ入漁ヲ許サ、
 ル所ト云ヘリ又明石郡沖合字鹿瀬ハ有名ナル漁場ニ
 シテ漁者ノ金庫トモ稱スヘキ所ナリ此ヲ以テ從來同
 郡漁村ハ淡路國津名郡漁村ト最モ近接セシニヨリ該
 場漁權ヲ爭ヒタルヲ屢アリ自今ハ約束ヲ以テ穩便ニ
 漁業ヲ營此時旧飾磨縣ノ達アリ參考而シテ他ノ漁
 書布達ノ部第四号ニ掲載ス村ニハ漫リニ侵入スルヲ許サスト云フ之ヲ以テ見ル
 片ハ明治五年旧飾磨縣ニ於テ沖漁ハ入會磯漁ハ地先
 據云々令達詳細ハ參考書布達ノ部ニ掲載スセシモ遂ニ行ハレサ
 リシ如シ

淡路國

漁場ニ地網代沖網代アリ地網代ハ其深サ九十尋乃至

十五尋海底ハ砂及小石ヲ交エ多ク藻類ヲ叢生シ地曳
 網類ノ使用ニ於テ最モ緊要ノ海面ナリ其沖境ハ陸ヲ
 距ル凡二十丁内外ニシテ此間ヲ以テ沿岸漁村ノ専漁
 場トナセリ明治八年太政官第廿三号公布アリタルモ
 尚従前ノ例ニ從ヒ部細ハ参考書布達ノ浦方ト稱セシ
 漁村ノ外ハ漁業ヲ許サス今ニ至ルマテ之ヲ慣行シ少
 シモ變更セシトナシ又沖網代ハ即チ地網代以外ニシ
 テ淵然急ニ深ク海底ハ泥濘ナリ該處ハ地曳網ノ使用
 ニ適セサル處ニシテ手繰網其他ノ沖漁業ヲ営ム所ト
 ス又其沖境ハ各浦同シカラス概ネ地網代沖境ヨリ以
 外二里或ハ三里ノ遠キニ至リ一定セス而シテ一ヶ村
 ノ専漁アリ或ハ數村或ハ一般入會ノ漁場アリテ亦一
 定セス

但馬國

地先海面ハ概ネ陸地村界ヲ以テ海面ヲ限リ各村ノ専
 漁場トナス間々又數村ト共同スルアリ沖境ハ概ネ陸
 ヲ距ル一里迄トス又二方郡三尾諸寄等ノ如キ漁村ハ
 磯漁場中特ニ一巳人民ノ専漁場トナシタルモノ少カ
 ラス又鰯、鰈、魚等ノ沖漁ハ陸ヲ距ル四五里以上遠キハ
 十五里乃至二十里ノ間ニシテ其場所概ネ一定セリ其
 中鰯漁場ハ因幡國漁場ト尤モ密接スルヲ以テ二方郡
 居組村ノ如キハ屢々因幡國岩井郡田後村等ト紛議ヲ
 起セリ

漁場

漁場ノ概略ハ漁權ノ部ニ述ヘシト雖モ尚一般ニ就テ之
 ヲ掲クハシ抑兵庫縣ハ海ヲ南北ニ控ヘ漁業自カラ其狀

況ヲ異ニセリ即チ南ハ攝津播磨及淡路ニシテ攝津ノ南
 及淡路ノ東ハ茅渟海ニ又播磨ノ南及淡路ノ西ハ瀬戸内
 海ニ面セリ而シテ茅渟海ノ南口ヲ由良峽又瀬戸内海ノ
 東口ヲ明石峽其東南口ヲ鳴門峽トナス海濱ハ概子砂利
 ニシテ往々磯礁ヲ交ユ少シク陸ヲ離ルレハ一帶ニ海藻
 ヲ叢生シ尤モ魚族ノ繁息ニ適セリ潮流ハ概チ東西ニ往
 来シ春ハ急ニシテ冬ハ緩ナリ獨リ鳴門由良ノ兩峽ハ南
 北ニ流レ而シテ明石峽ト同シク其流勢頗ル急ナリ就中
 鳴門ノ潮流ハ最モ劇烈ニシテ春季大潮ノ片ハ峽ノ左右
 ノ水面ノ高サ十間余ノ差アリト云フ以上ノ海面ニ於テ
 漁業スルモノ鰯漁其他ノ小魚ハ概チ海岸ノ近邊ニ在リ
 テ其區域狹小ナリト雖モ鱈鯖鯛網及ウタセ網等ノ沖漁
 ハ陸ヲ距ル凡三四里以上ノ所ニシテ阿紀淡或ハ阿播淡

或ハ讃岐及三備等ノ沖合ニ在リテ其區域頗ル暖淡ナリ
 又北ハ但馬ニシテ日本海ニ面セリ海岸ハ概チ磯礁基布
 シ暴浪怒濤常ニ之ヲ洗ヒ而シテ汀外ハ淵然トシテ俄ニ
 深ク鮑、榮螺、等ノ諸貝能ク生殖ス其他有用ノ海藻亦少カ
 ラス藻間ニハ魚族多ク生息セリ潮流ハ常ニ東西ニ從ヘ
 リ春ハ概チ緩ナルモ其他ノ時季ハ急ナリ沿海漁業ハ概
 チ南海ノ如シ而シテ鰈、蟹、漁或ハ鰻、魚等ノ如キハ陸ヲ距
 ル五六里以上二十里ノ遠海ニ於テス
 附以上各海ニ於テ捕採スル水産物名及其漁期漁場ヲ示
 スト尤ノ如シ

水産物品名

南海之部

鰯

玉筋魚

烏賊

石鰈

鮫魚

イワニ鰯

ハレバ

鰯

金絲魚

イボケ

バラ鰯

針烏賊

沙魚

鹿角魚一名ハギ

伊勢蝦

辛螺

バダカ鰯鰯

バタ鰯

ハカナ

ハリ鰯

ホウシ

ホレ

ホウシヨウ鰈

鰯一名ナヨシ

花魚

ホウツキ雑魚

鮎鰯

法螺

ボウズ貝

ボウドリ

ハラ

ボウツ鰯

ホシ鰯

ホシカレ鰯一名シガラ

ホタル雑魚

ベンス

ベンスナ海鰻鰻

ヘダイ

紅烏賊

ヘクジ鰯

文鰯

ドレコ一種ハル

トロ一種

ドウジ

ドロソ

寅沙魚

トサレボウ鰯

トラガツト

鳥貝

トビ蝦

海鰻

石花菜

ハカマナダレ

ドウケシ

鶏子魚

鰯魚

ヲキナヨリ雑魚

大口鰈

ヲマタリ鰯

地章魚

大鰈

大鰯

大章魚

大蝦

大魚

沖牡蠣

ヲノ貝

ヲノ貝

ヲゴボ

大鰈

牡蠣

ワニ鰯

裾帶菜

沖章魚

沖蟹

鰻魚

カタ鰯

カヲ藻

カシラ

カシラ

カ、リ一名ヌシメ女即又テコノボウ

カウイカ

カラサイ

カシラブト

カイツ海鰻

カモザコ

剥皮

カミミウヲ

カスゴ

カタホソ

カチキトウジ鰯

カ、リ

ガントウ海豚

帷子鰯

蟹

タレボ烏賊

タモリ

タケノコ

章魚

刀魚

レンコダイ

タケウ

タイナシ

タイチヨウ鰻

タイチヨウ鰻

ツバタ

ツ子鰻

ツマル鰯

ツマル鰯

ソコ花魚

ネキナタレ

ネコクワズ

ツボコ貝

燕鰯

ツメジ

魚類

ネツ、鱧

ネコ鱧

ナダレ

ナコヤ鱧

ナダラ

長藻

ナカタ鱧

海鼠

ウルメ鱧

カシロダ鱧類

ウボセ

梅干一名藻玉

箸鱧

梅鉢鱧

鰻

ウキ花魚

ウルメ

ウシ鱧

ハリ名魚

ノリ鱧

黒鰈

黒沙魚

黒魚

蜘蛛章魚

黒鯨

黒蝦

口黒鯛

鰈一名クネザラ
又イシモチ

グソツボ一名藤十郎

鯨

黒ドウシ

クワ牡蠣

海月

口細鰈名魚

黒鯛

車蝦

黒海鰻鱺

ヤイト鰈

ヤケ烏賊

火筒一名大鼓

ヤナギ章魚

真章魚

真鰈

鱒

マンゲエ貝

魚カマツラ

竹塹

マクロ

真烏賊

マタノワ鱧

マカレ

猿名貝

真鯛

真蝦

真貝

マツ烏賊

真鰈

鰈

鱧

河豚一名フグ

海薺

鯛

小鱈

小鱈

鰻

小鯛

小鱈

小鯛

小鰈

小鰈

小判魚

小蟹

コシナカ鰻

昆布海苔

神戸鱧

コルハゲ

コハゲ

コチヨウタケノコ

蝦

コバン鱧

ゴワシ鱧

胡麻海鰻鱺

蝦

エガイ

鱧

鯨

烏帽子貝

エドトリ

蝦雑魚

テレフサ

手長章魚

天神鱧

鱈

海鰻鱺

蜷

鮑一名細ロヌ
ホソドウシ

足赤鰈

アツコウ

赤目魚

赤シタ

鮑

鮎

鮫鱈

青ハラ

アコ

赤ベラ

アイゴ

赤トウシ

アコウ鱈

アカノ

雨鰈

苗蝦

赤貝

アサミ蟹

アマテ鰈

赤ソコ鱧

アブラメ鱈

青海苔

赤鱧

赤沙魚

青シタ

アツキ鱧

アシカ鰈

鯖

鱈サケ 「サカタ」 栄螺 鱧サケ 一名 スス 山椒魚 雜魚

サイラ サワ河豚 青箭魚 サノ鱈 サカタ鱈

ギンダ魚 「ギンナ」 キ鱈 繪殘魚 「ギン」

雞魚 鯢 黄貝 「ギンサイベラ」 ギラ河豚

キタマクラ河豚 目高鱈 目白 狐海鰻鱺 「コウ」

メ鱈 鮓 堆海苔 ミ、烏賊 シヤコ蝦

水鳥賊 麵條魚 縞魚 「シ、ラ」 鮪ハ一名

シ、ボ烏賊 「石トウシ」 シタ シマ鞋底魚 鋸魚

シラサ、河豚 白藻 白貝 白鮪 白魚

白鱈 白沙魚 白魚

白海鰻鱺 「ロメイチ」一名 ヒ鳥賊 鱒魚

比目鱈 ヒカタケ鱈 ヒラ藻 ヒガカシラ鱈 鹿尾藻

藻魚 藻蝦 毛鹿角魚 餅貝 藻鱈

モ河豚 モトキ鱈鱒 瀬戸貝 小鱈 船頭烏賊

鱸 ス、サイラ 菅鮓 スルメ烏賊 スクモ梅鱈

スイカラ鱈

北海之部

鰯 鳥賊 海豚 イカケ 貽貝一名玉貝即チ南海瀬戸貝

鰯魚 磯鱈 魁蛤 イトクリ 玉筋魚

イ、ス 鮓 蛤 猪螺 ハト鮓似タリ

鱧 沙魚 ハ若芽似タリ ハイヨウ 辛螺

蜷 ニタリ貝 鮓 鮓 鮓

土魚似タリ 文鱈魚一名 石花菜 鱈 鱈

ヲ、ヨラ 「ヲコヲシ」 大鱈 大魚 裙帶菜

鮪	シ ラ	鰯 魚	鰹	白 貝	鰺 條 魚	雌 海 苔	目 高 鰈	鮭	目 白	目 板 蝶	鶏 魚	黄 貝
九 月	七 六 月 月	至 自 七 四 月 月	至 自 九 七 月 月	至 自 八 四 月 月	十 一 月 月	二 一 月 月	周 年	周 年	周 年	周 年	自 五 月 至 九 月 一 月	至 自 十 四 月 月
			至 自 十 七 月 月					至 自 十 二 月 月				
瀬 戸 貝	小 鱸	海 蘆	モ シ 鯛	皮 黒 魚	比 目 魚	鮭 魚	七 鳥 賊	ヒ ツ 貝	ヒ メ イ チ	シ ホ 鳥 賊	シ ラ	ジ バ
至 自 十 一 月 月	自 一 月 至 三 月 月	自 八 月 至 三 月 月	至 自 十 六 月 月				十 一 月 月	周 年	十 六 二 月 月	至 自 十 七 月 月	自 十 月 至 十 二 月 月	自 十 二 月 至 十 三 月 月
至 自 九 三 月 月		至 自 八 六 月 月		至 自 十 九 月 月	至 自 十 五 月 月	十 九 月 月						

赤 鱈	ア エ ナ ミ	蛸 貝	ア カ ノ	鮫 鯨	ア イ	足 赤 蝦	魷 魚	海 鰻 鱺	ア マ 海 苔	ア マ 鰈	鮭	テ ン フ サ
		至 自 十 四 月 月	至 自 十 七 月 月	至 自 九 二 月 月	至 自 十 五 月 月	至 自 十 六 月 月	周 年	周 年	至 自 十 二 月 月	周 年	至 自 十 五 月 月	七 六 月 月
至 自 十 一 月 月	至 自 十 二 月 月										六 五 月 月	
キ バ	ギ シ	鱈 残 魚	サ イ ラ	雜 魚	山 椒 魚	鰻	衆 螺	鱈	鯖	黒 菜	鮑	浮 津 鯛
至 自 十 一 月 月	十 九 月 月	至 自 九 四 月 月	至 自 十 一 月 月	至 自 十 二 月 月	至 自 十 六 月 月	至 自 十 一 月 月	自 一 月 至 四 月 月	至 自 四 月 月	周 年			
							自 六 月 至 八 月 月	至 自 十 一 月 月	周 年	至 自 七 月 月	自 十 一 月 至 十 三 月 月	周 年

六
反
係

六
反
係

鱸

周年

自七月
至十一月

ス、サイラ

自十二月
至翌年三月

魚
類

12月

糸月録 卷の1の末尾に折し

兵庫縣海面漁場略圖

